



「子どもに夢を」世界に発信

市は、3月15日(火)に市在住で世界的に活躍する造形作家・新宮 晋さんと洋菓子店「パティシエ エス コヤマ」のオーナーシェフ・小山 進さんを「さんだ夢大使」として任命しました。

今後、二人は三田の魅力のPRやイベント参加のほか、まちづくりの提案や子どもたちの育成に取り組みます。

さんだ夢大使とは

三田市の都市ブランドのイメージと知名度を向上させることを目的に、まちづくりに対する提言などを通じて、「ひと・さと・食」の魅力あふれる三田を、国内外に広く発信していくために設置しました。

大使の主な役割は、①三田市のまちの魅力を日々の活動の中で広く紹介する ②まちづくりに対する提言 ③市民へのメッセージ提供 ④市の行事への出席などの4点です。

問い合わせ：シティセールス推進課(559-5012) FAX 563-1366



「さんだ夢大使」就任!

お二人からのコメント

新宮 晋さん



私は絵本も描いていますが、絵本を通じて子どもたちに伝えられるメッセージはとても大切です。私の絵本は世界中で読まれているので、メッセージが子どもたちに広がっていくのは、大きな喜びであると同時に責任も感じます。

三田に住んでいる子どもたちが、三田に誇りを持って、これから未来を築いていけるような、そういうまちになればと願います。私は海外の仕事を数多くしていますので、三田の子どもたちに世界を知ってもらい、また海外でも三田の素晴らしさを伝える、そういう活動をしたいと思っています。

大事なことは、三田のオリジナルとは何かを明確に示すことです。他でやっていることを真似するのではなく、三田の特色を生かした活動を展開し、実行していきたいです。

私も頑張りますので、三田市にも尽力をお願いしたいと思います。どうかよろしくお願いします。

プロフィール

造形作家。県立有馬富士公園の「新宮 晋 風のミュージアム」では、単なる野外ミュージアムにとどまらず、文化の発信拠点として、能やジャズなどさまざまな公演を定期的に行っています。

「自然と共存する未来の生き方」をテーマとした活動をはじめ、次代を担う子どもたちが、未来の生活や自然との関わり方を考える機会となる活動を、継続的に実施しています。新宮さんの風や水で動く彫刻は、海外でも多くの公共空間に設置されており、高い評価を得ています。第43回毎日芸術賞特別賞、紫綬褒章、旭日小綬章など受章多数。

小山 進さん



これまでも個人的に会社単位で、三田の素材や三田のいいところは紹介してきました。ですから、今日を境に特別に何かを発信ということはないけれど、市一丸となってやるということは大きな意義があると思います。これから始まる構想にもゼロから参画し一緒に考えていきたいと思っています。

子どもたちには、将来素晴らしい表現者になってほしいので、学校ではできない、私だからできることを協力していくつもりです。表現することや、褒められること、チャレンジしていくことの楽しさを伝えたいと思っています。

そして、何より一番大事なことは、大人たちが子どもたちにとって憧れられるような見本でいることだと思っています。

三田の大人たちが、子どもたちに憧れられるような存在でいることが大事だと思いますので、自分ができる発信は市と協力してやっていきたいと思っています。

プロフィール

「パティシエ エス コヤマ」オーナーシェフ。平成15年、ゆりのき台に開業し、「上質感のある普通味」を核にプロフェッショナルな味を展開し続けています。平成27年、パリで最も権威あるチョコレート愛好家の品評会で5年連続最高位を獲得するなど、名実ともに世界を魅了するパティシエです。

子どものためのパティスリー「未来製作所」をはじめ、「パティシエ エス コヤマ」には子どもたちに「伝えたい」思いと大人の「知りたい」を産み出し育む空間が広がっています。

四つの改革②市役所の改革



三田市長 森 哲男

市長の「ほっとトーク」 森のまちづくり談話

例年より早く桜が開花した今春、三田市役所においても、4月1日付の組織改革と人事異動を行いました。今回のテーマは、市が進めようとしている「市役所の改革」です。

市役所の改革は、(1)成熟社会の自治体に見合った組織改革、(2)適正かつ効果的な人材登用、(3)「市民と同じ目線」と「高い志」を持った職員への意識改革、そして(4)人口減・超高齢少子時代にふさわしい健全財政の推進が柱です。今回は4本の柱のうち、組織改革と人材登用についてお話しします。

まず、スピーディーな意思決定・執行のためにフラットでコンパクトな体制と危機管理体制の強化をメインに大規模な「組織改革」を実施しました。これにより、市役所内の風通しを良くし、職員間の情報共有を強化することで、これまでよりスピード感ある市民サービスの向上を目指します。

次に、「人材の登用」ですが、従来から市では、いわゆる年功序列ではなく、能力本位の人事に努めているところですが、地域間競争が激しくなる中、一層の能力本位・適材適所の人事に努めなければなりません。私の体験からも、公務員にとって人事異動は、「人生ドラマのワンシーン」であると思います。市職員にとって、人事異動に対する思いはさまざまですが、「得意淡然、失意泰然」という言葉もあるように、今回の人事異動をバネとして、一人ひとりの市職員が市民のために大きく伸びてほしいと強く願っています。市民の皆さんのご理解とご支援もよろしくお願いします。